

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 日
②法人・団体名	一般社団法人オートレランス		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	大阪市天王寺区味原町		
④責任者氏名	神垣忠幸	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	神垣忠幸	(役職名等)	代表理事

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R07-012	⑦助成金額	50 万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	無料塾アジハラベースの運営				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	アジハラベース 大阪市天王寺区味原町 7 番 6 号				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

アジハラベースでは昨年度無料塾と自炊塾の活動（毎週土曜日）をしていたが、本年度は不登校児童生徒の居場所を平日の火曜日から金曜日に開いた。土曜日にやってくる元気なこどもたちとは異なるこどもたちを平日に迎えることで、大阪市天王寺区の特徴を見ることができる。不登校児童生徒の割合は全国平均 7 % と聞くが大阪市では約 10 % と高い（中学生）。来所するこどもたちを見ると学習が困難なのではなくて、学校で過ごす（集団の中で過ごす）事に困難を抱えていることがわかる。同年齢間での同一性を求められ、比較と評価に晒されることに苦しんでいるように見える。アジハラベースはそれらのこどもたちと親たちの避難先として機能し、学校からは安心できる市民団体として認められている（毎月末に生徒の来所記録を共有）。更に近隣の高等学校とも連携（生徒の進学、学習サポート）が始まっている。次年度も全方位との信頼関係を保持して活動を継続させたい。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	168	2.5	420	火曜～土曜日まで
高校生等				
大学生等				
学習支援員等	369	2.5	922.5	高校大学生から社会人
その他	274	2.5	685	小学生
合 計			2027.5	

⑬その他の定量的な数値（任意）

- ・不登校児童生徒の居場所 147 日開所（7 ～ 3 月）
- ボランティア 198 名、こども 177 名（うち中学生 148 名）

- ・無料塾全 35 日開所（7 ～ 3 月）
ボランティア 171 名、こども 265 名（うち中学生 20 名）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：無料塾アジハラベイスの運営

法人・団体名：一般社団法人オートランス

作成者 氏名：神垣忠幸

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

- ・不登校児童生徒の居場所での学習支援
- ・無料塾での学習支援

2. 実施した奨学活動の詳細

- ・不登校児童生徒の居場所での学習支援

実施回数：全 147 日

参加人数：全 177 名

講師人数：全 198 名

相談件数：全 15 回

学校との連携：担任教諭の面談 24 回

- ・無料塾での学習支援

実施回数：全 35 日

参加人数：全 265 名

講師人数：全 171 名

相談件数：全 1 回

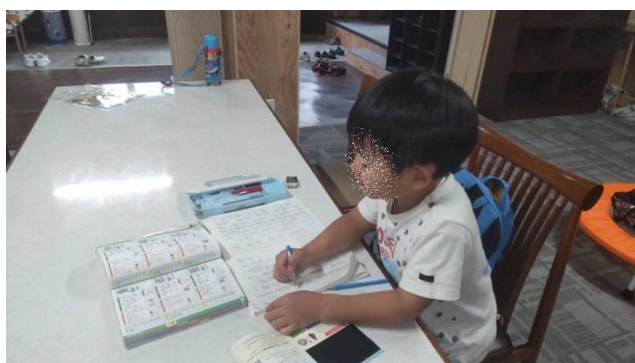
- ・周知と連携

天王寺区内の小中学校への直接説明と事業案内印刷物を前項配布実施

SSW への事業説明

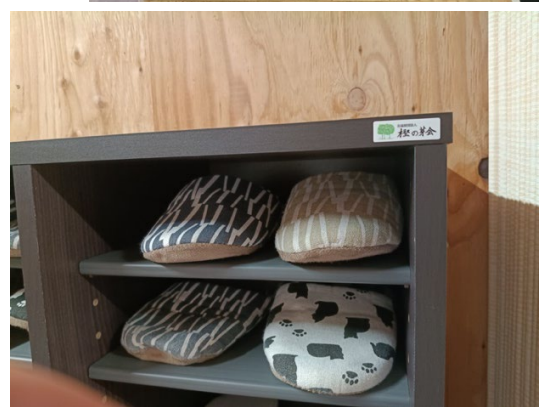
天王寺区社会福祉協議会主催のこどもの居場所連絡会への積極参加

学習支援員はオンラインサービス activo を利用して毎月複数名の応募を得ている。更に近隣の府立高校教員からの申し出で、4 月から毎週 3 名の学生ボランティア派遣をしていただくことになりました。





* 写真左から無料塾の指導風景、自習する児童、自習する不登校男子中学生 2 名



* 購入備品上から本箱 1 台、下足箱 1 台、プリンタ 1 台、購入書籍 9 冊

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

・無料塾ではひとり親家庭の子ども、外国人家庭の子どもへの学習支援を特に意識して実施している。一方で不登校児童生徒は無料塾にも来ないことがわかり、彼らのための学習支援を平日に開催した。発達に特徴のある子どもたちだがアジハラベースでは落ち着いて学習を継続している。彼らへの学習支援を更に充実させる計画です。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

不登校の子どもたちが登校するようになればここに来ることはない。結果的に多くの児童生徒が登校するようになった、しかしそれが目的ではなく、一人ひとりの学ぶ権利が保障されることが大切なのだと感じる。学校に行けば提供される給食も自宅に居れば家族が準備する必要がある。この費用負担は自己責任なのか？そこに苦しむ保護者も居るのだ。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

なし